

ひろしま  
未来

# チャレンジビジョン

～県民の力とイノベーションで未来をつくる～

将来にわたって、  
『広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった』  
と心から思える広島県の実現

県民の皆様へ

新たな広島県づくりに  
一緒に取り組みましょう!!

# 挑戦



平成22(2010)年10月

広島県知事 **湯崎英彦**


# 目次

|                                      |           |
|--------------------------------------|-----------|
| <b>第Ⅰ章 総論</b>                        |           |
| <b>1 策定に当たって</b>                     | <b>7</b>  |
| (1) 策定の趣旨                            | 7         |
| (2) 基本構成                             | 7         |
| <b>2 おおむね10年後を展望した場合に踏まえるべき重要な変化</b> | <b>8</b>  |
| (1) 人口減少・少子高齢化                       | 8         |
| (2) 経済活動を始めとするグローバル化                 | 8         |
| <b>3 基本理念と目指す姿</b>                   | <b>9</b>  |
| (1) 基本理念                             | 9         |
| (2) 人生のステージごとの目指す姿のイメージ              | 10        |
| <b>4 目指す姿の実現に向けた4つの挑戦</b>            | <b>11</b> |
| (1) 挑戦の必要性                           | 11        |
| (2) 広島県の底力を引き出す4つの挑戦                 | 12        |
| (3) 分野別の目指す姿                         | 12        |
| (4) 4つの挑戦を具体化し推進する上での視点              | 14        |
| ア「強み」を生かした活力の創出                      | 14        |
| イ「イノベーション」による新たな価値の創造                | 14        |
| ウ「グローバル化」への的確な対応                     | 14        |
| エ「県民主体」の新たな広島県づくり                    | 14        |
| オ 市町及び近隣県との「連携」                      | 15        |
| <b>5 行政刷新</b>                        | <b>16</b> |
| (1) 新たな広域自治体の構築                      | 16        |
| ア 基礎自治体・広域自治体・国の担う役割の基本的な考え方         | 16        |
| イ 国と広域自治体の関係                         | 16        |
| ウ 広域自治体と基礎自治体の関係                     | 16        |
| エ 新たな広域自治体の構築へ向けた取組                  | 17        |
| (2) 4つの挑戦を支える行政経営の基盤づくり              | 17        |
| ア 財政面での「基盤づくり」                       | 17        |
| イ 行政面での「基盤づくり」                       | 17        |
| (3) 行政運営の透明性の確保と情報発信の強化              | 17        |
| <b>6 ビジョンを推進する上での施策のマネジメント</b>       | <b>18</b> |
| (1) 3つの視座の徹底                         | 18        |
| ア 県民起点                               | 18        |
| イ 現場主義                               | 18        |
| ウ 予算主義から成果主義への転換                     | 18        |
| (2) 施策のマネジメント                        | 18        |

## 第 II 章 4つの挑戦の取組方向

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 「人づくり」への挑戦 .....      | 21 |
| 教育 .....              | 22 |
| 多様な主体の社会参画 .....      | 26 |
| 人が集まり定着する環境整備 .....   | 28 |
| 「新たな経済成長」への挑戦 .....   | 31 |
| 新たな産業・基幹産業 .....      | 32 |
| 農林水産業 .....           | 34 |
| 観光 .....              | 36 |
| 産業人材・就労 .....         | 37 |
| 交流・連携基盤 .....         | 39 |
| 「安心な暮らしづくり」への挑戦 ..... | 41 |
| 医療 .....              | 42 |
| 健康 .....              | 44 |
| 福祉・介護 .....           | 45 |
| 子育て .....             | 46 |
| 環境 .....              | 47 |
| 防災・防疫 .....           | 48 |
| 消費生活 .....            | 50 |
| 治安 .....              | 51 |
| 「豊かな地域づくり」への挑戦 .....  | 52 |
| 県民主役型地域社会 .....       | 53 |
| 地域資源活用・地域情報化 .....    | 54 |
| 都市地域 .....            | 56 |
| 中山間地域 .....           | 58 |
| 平和貢献 .....            | 60 |
| 参考資料                  |    |
| 統計資料 .....            | 62 |
| 指標一覧 .....            | 66 |
| 用語解説 .....            | 70 |
| 策定経緯 .....            | 78 |





# 第 I 章

# 総論

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 1 策定に当たって .....                     | 7  |
| 2 おおむね10年後を展望した場合に踏まえるべき重要な変化 ..... | 8  |
| 3 基本理念と目指す姿 .....                   | 9  |
| 4 目指す姿の実現に向けた4つの挑戦 .....            | 11 |
| 5 行政刷新 .....                        | 16 |
| 6 ビジョンを推進する上での施策のマネジメント .....       | 18 |

#### 「用語解説」について

---

第Ⅰ章「総論」及び第Ⅱ章「4つの挑戦の取組方向」の文章中で、右肩に青字で P と付したものについては、巻末(P70～P77)にその解説を記載しています。

# 1 策定に当たって

## (1) 策定の趣旨

広島県は、風光明媚な瀬戸内海やなだらかな中国山地など豊かな自然に恵まれ、古くからの交通・流通の要衝、産業の拠点、文化・教育の中心地としての道を歩んできました。

また、世界で初めて原子爆弾の被害を受けるなど多大な戦禍を被りましたが、戦後、県民の懸命な努力により目覚ましい復興を遂げ、平和に関する世界的知名度を持つだけでなく、西日本有数の工業県、中国・四国地方における中枢県として発展してきました。

しかし、現在、国と同様、本県においても、人口減少・少子高齢化、経済活動を始めとするグローバル化の進展など、一人ひとりの行動から社会経済システムに至る広範な分野で変革を求められる大きな変化が静かにかつ着実に進行しており、過疎化の進行、医師の地域偏在や特定診療科における医師不足、教育の再生などの難しい課題も深刻さを増しています。

また、平成20(2008)年秋から始まった世界的不況の中で、輸出型産業 P77 に大きく依存している本県の経済は大きな影響を受けており、経済を活性化して雇用を確保し、県民の生活を守ることが緊急の課題となっています。

今や、本県の経済・社会は成熟し、人口が減少し、本格的な高齢化が進む時代の入口という大きな岐路に立っており、ここで、目の前にある課題に適切に対応しつつ、現実を直視し、将来を見据えて変革に挑戦しなければ、輝きを失ってしまうおそれがあります。一方、変化に対応し、新たな発想を持って変革に挑戦していけばピンチをチャンスに変える契機ともなります。

本県には、2つの世界文化遺産 P74、多くの島々が織りなす景観が美しい瀬戸内海、競争力あるものづくり産業の集積、世界最初の原爆による破壊からの復興の歴史など、世界に誇れる多くの「力と宝」が存在しており、その財産を最大限活用して底力を発揮することで、変化に対応した新しい活力や仕組みを生み出す可能性を持っています。

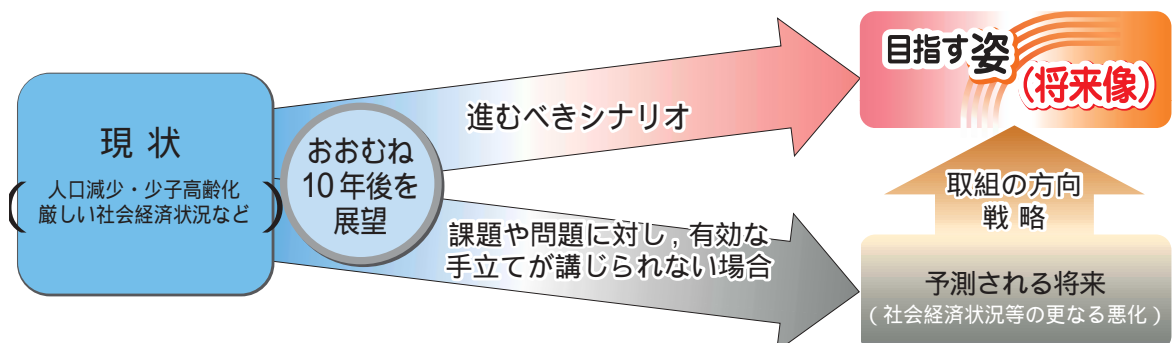
これから本県がもう一度その底力を発揮して、圏域ブロック P71 全体の発展も視野に入れ、近隣県等と連携して、次代の社会の基盤を築き、子どもたち、孫たちへとつないでいく必要があります。

本県の財産を生かして希望あふれる将来をつくっていく主役は県民一人ひとりです。県は、自ら問題意識を持って一歩踏み出そうとしている方々、挑戦しようとしている人たちを応援することで、一緒に、新たな時代を切り開く広島県づくりに取り組まなければなりません。

時代の転換点に立つ中で、このような認識に立ち、本県の目指す姿(将来像)を県民の皆様と共有し、一緒に、新たな広島県づくりを推し進めるため、このビジョンを策定します。

## (2) 基本構成

おおむね10年後を展望し、現在本県が直面している課題や今後深刻な影響を受けるおそれがある問題に対して有効な手立てが講じられない場合に予測される将来を明らかにした上で、県民みんなで目指す姿(将来像)を描き、これを実現する取組の方向や戦略を示します。





## 2 おおむね10年後を展望した場合に踏まえるべき重要な変化

本県が直面する様々な課題のうち、一人ひとりの意識や行動、まちづくりから社会経済の様々なシステムに至るまで、抜本的な変革を求められる、特に影響が大きいと考えられる人口減少・少子高齢化及び経済活動を始めとするグローバル化について、現状と今後の推移、社会・生活に与える影響、求められる政策の方向性を示します。

### (1)人口減少・少子高齢化

#### 現状と今後の推移

長期的な少子化傾向を反映し、本県の総人口は平成10(1998)年にピーク進学や就職による社会減<sup>P73</sup>も継続(若者の流出が大きく、本県に戻る若者が減少。若者の減少は自然減<sup>P73</sup>にも大きく影響)  
今後、労働力人口<sup>P77</sup>が大きく減少(20年間で生産年齢人口<sup>P73</sup>は2割減少) 老年人口<sup>P77</sup>は今後も増加、都市部でも高齢化率<sup>P72</sup>が大きく上昇

#### 社会・生活に与える影響

経済活動の縮小(県内総生産の減少、税収の減少等)  
支援を要する高齢者世帯(特に単身世帯)の増加  
社会保障負担等の増加による家計負担の増大  
人口密度が更に低下する中山間地域<sup>P74</sup>を中心に、日常生活に支障が出るおそれ(医療機能の低下、生活交通<sup>P73</sup>確保の困難化、商業施設の撤退等)

#### 求められる政策の方向性

あらゆる分野で、様々な主体と連携し、社会全体で新たな活力を創出イノベーション(新しいアイデアで、モノや情報、仕組みなどを組み合わせ、新たな価値を創造)の促進  
労働力率<sup>P77</sup>の引き上げ、生産性の向上による経済力低下の防止  
本県の魅力を総合的に高め、様々な人が集い定着する仕組みづくり  
まちづくりなど様々な仕組みを人口減少時代に対応できるよう見直し

### (2)経済活動を始めとするグローバル化

#### 現状

情報通信技術ICT<sup>P70</sup>の発達、輸送・交通手段の高速・大型化等により、人やモノ、資本、情報等が国境を越えて移動するグローバル化が進展  
市場の中心は、欧米から開発途上国、新興国<sup>P73</sup>にシフト  
特に、成長著しい中国を始めとする東アジア地域が世界経済の発展を牽引。また、インドなど、広大な国土、豊富な天然資源、労働力の源泉となる膨大な人口を有する国が台頭  
全国・本県のいずれにおいても、輸出入総額のうち半分近くをアジア地域が占める。

#### 社会・生活に与える影響

人、モノ、資本、情報等がボーダーレスに行き交い、経済活動を始め、文化・芸術、スポーツなどの様々な分野で、あるいは、県民一人ひとりの日常生活から企業活動に至るまで、あらゆる場面に影響を及ぼす。

#### 求められる政策の方向性

アジア地域など、海外の成長市場の活力の取込み  
本県の産業構造の特徴である製造業の国際競争力の一層の強化  
海外でのニーズが見込まれる製品や農産品などの積極的なセールス  
外国人の訪日観光の拡大  
物流基盤やグローバルゲートウェイ<sup>P71</sup>機能の強化  
グローバル社会に生きる人材の育成

## 3 基本理念と目指す姿

### (1) 基本理念

〔基本理念〕

将来にわたって、  
『広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった』  
と心から思える広島県の実現

健康で、安心して、生き生きと暮らし、幸せを実現させたいと願う思いは不変であり、こうした願いの実現は、私たち一人ひとりがこれからも追求し続ける課題です。

我が国は、人口減少・少子高齢化など、大きな環境変化が進む時代の転換点にあり、モデルのない時代へ移行しようとする中であって、広島県は、イノベーションを通じて県民が夢と希望を持てる経済成長を実現し、豊かさを実感できる経済を背景に、一人ひとりが安心して健康に生活し、生きがいを持って暮らすことのできる社会、一人ひとりが、それぞれの価値観に基づいた満足を実現できる社会を目指すべきです。

本県が底力を発揮して、こうした将来を実現できれば、日常生活、経済活動等の様々な局面で、あるいは、出産、子育て、就学、就職など、ライフサイクルにおける大きな転換期において、広島県を人生のステージに選択したことに満足し、本県で暮らすことを誇りに思っただけのものと同様に確信しています。

また、こうした魅力ある県になっていくことで、国の内外から更に多くの人々が本県に集うことが期待できます。

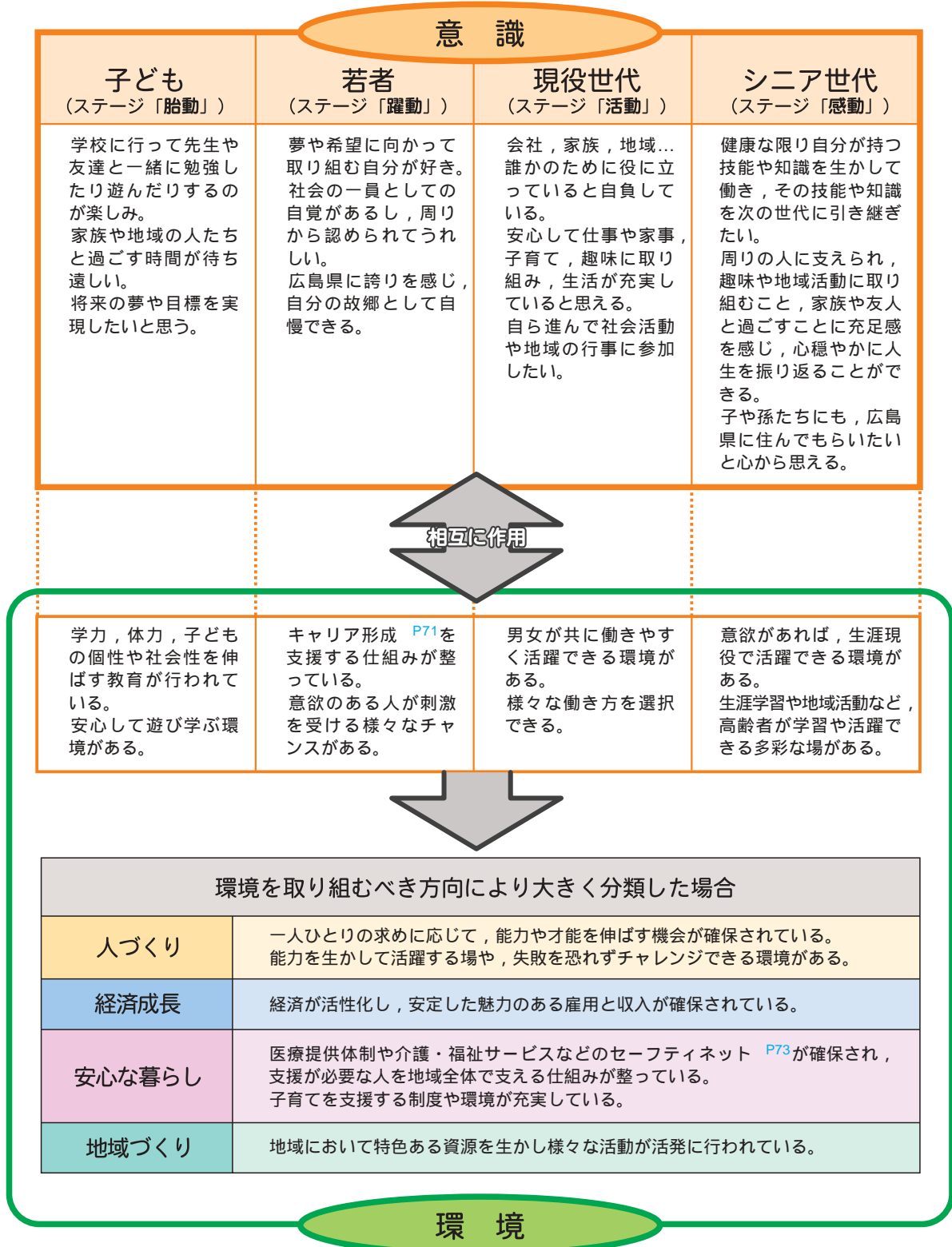
こうした観点から、地域社会全体の価値を高めることで、

将来にわたって、  
『広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった』  
と心から思える広島県の実現

をビジョンの基本理念にその実現に取り組みます。

## (2) 人生のステージごとの目指す姿のイメージ

基本理念が実現した人生のステージごとの目指す姿（人々の意識と、それを醸成する環境）のイメージは次のとおりです。



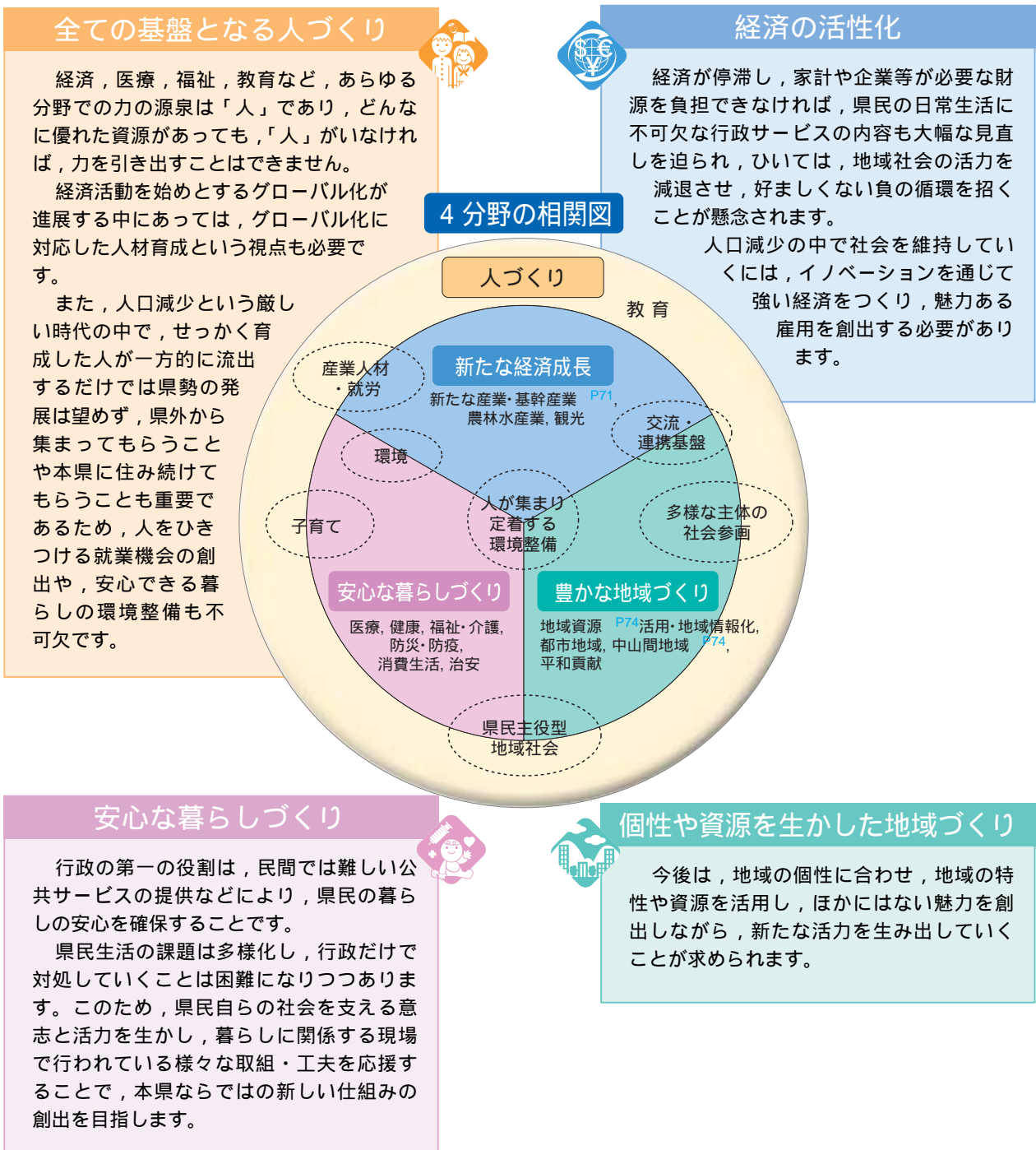
## 4 目指す姿の実現に向けた4つの挑戦

### (1) 挑戦の必要性

人口減少・少子高齢化，経済活動を始めとするグローバル化など，大きな変化が進む中で，過疎化の進行，医師の地域偏在や特定診療科における医師不足などの難しい課題に対応するためには，これまでの取組の延長線上にあるやり方を続けては立ち行かなくなります。

現在県民が享受している豊かさを維持し，生活に必要な様々なインフラ <sup>P70</sup>やセーフティネット <sup>P73</sup>を確保するためには，リスクを伴い，多くの障壁があっても，失敗を恐れず，果敢に改革に取り組むことが求められます。

こうした取組が「挑戦」であり，本県の持つ「力と宝」とも言うべき「強み」を生かし，分野ごとに積極的に展開します。



## (2) 広島県の底力を引き出す4つの挑戦

経済が成長すれば、雇用を通じて家計に富が配分され、県民が生活する上での経済的基盤が確立し、自立した生活を送ることができるようになります。また、税金が確保されることで、県民の生活を支える医療、福祉、教育、社会資本など、生活に必要なインフラ<sup>P70</sup>や安心をもたらすセーフティネット<sup>P73</sup>の確保に必要な行政サービスが維持できます。これにより、県民に住みやすさや安心がもたらされ、地域の総合的な魅力が高まっていきます。

こうした地域の魅力にひかれ、人やモノが本県に集まり活性化することで、更に経済が成長するという正の循環が形成されることとなります。

このような観点から、県民と共に「目指す姿」を実現するため、「人づくり」、「新たな経済成長」、「安心な暮らしづくり」、「豊かな地域づくり」の4つの政策分野ごとに「目指す姿（将来像）」を掲げ、本県の「強み」を最大限に生かして様々な挑戦を行います。

4つの挑戦は相互に関連するシステムとして一体的に推進する必要がありますが、4つのシステムで好循環を形成するためには、推進力が必要との視点で、まずは、雇用や所得を生み出す「新たな経済成長」をエンジンと位置付け、積極的に推進します。あわせて、「人づくり」は、全ての挑戦に共通する基盤であり、着実に取り組みます。



## (3) 分野別の目指す姿



| 人づくり          |  |
|---------------|--|
|               | これからの本県を内外から支える人材の育成、人をひきつける就業機会の創出など全ての県民が輝く環境の整備により、人が集まり、育ち、生き生きと活躍しています。   |
| 教育            | 子どもたちが、将来にわたってたくましく生きる力を持ち、健やかに育っています。グローバルな感覚を持った人材が育ち、企業や地域社会などで活躍しています。若者が、社会に貢献できる資質や能力を身に付けています。社会人が、働きながらスキル <sup>P73</sup> の向上や、社会の変化等に対応した新たなスキルの取得を積極的に目指せる環境が整っています。 |
| 多様な主体の社会参画    | 性別・年齢等にかかわらず、全ての県民が活躍できる環境が整っています。   |
| 人が集まり定着する環境整備 | 広島県の魅力にひかれ国内外から人が集まるとともに、広島県で育った人が県内に定着する環境が整っています。  |



## 新たな経済成長

新たな挑戦を行う企業や人が活発に活動し、イノベーションを通じて新しい経済成長のステージが生まれることで、魅力のある雇用・労働環境が創出され、県民が将来に向けて大きな希望が持てる強固な経済基盤が整っています。

|                |  |
|----------------|--|
| 新たな産業・基幹産業 P71 | ものづくり産業における世界トップレベルの技術の集積を生かしつつ、新しい産業が生まれ育ち、社会経済情勢や市場の動向に、柔軟かつ的確に対応できる「イノベーション立県」が実現しています。新たな挑戦や意欲ある取組が活発に行われ、アジアを中心とする成長市場を獲得しています。 |
| 農林水産業          | 農林水産業が自立した産業として確立し、生産から販売まで一体的な取組が活発に行われ、若者を含む新たな雇用を創出するなど、地域産業の核となっています。  |
| 観光             | 「ひろしまブランド」や「瀬戸内ブランド」が確立され、国内外から訪れる多くの人々に感動と癒しを与えるとともに、県民にとっても世界に誇れる観光地となっています。本県産業の柱である「ものづくり」に加え、観光が成長を支える産業の一つとなっています。             |
| 産業人材・就労        | 経営能力や高度な技術・技能を備えた多彩な産業人材の育成・集積が進み、イノベーションを生み出す源泉となっています。働く意欲のある人が県内で活躍するために、産業構造の変化に柔軟な対応ができる労働市場が形成されています。                          |
| 交流・連携基盤        | 人やモノが集まり、国内外との交流が盛んに行われています。   |



## 安心な暮らしづくり

医療・福祉・子育てなど、県民生活に直結した課題について、企業、団体、県民などの様々な主体と連携して、社会全体でその課題解決に取り組み、全ての県民が安心して生活し、幸せを実感できる環境が整っています。

|       |   |
|-------|---|
| 医療    | 地域に必要な医師等が確保され、安心できる医療サービスを受けることができます。総合的ながん対策が日本一進んでいます。 |
| 健康    | 県民が生涯にわたり健康で暮らすことを応援する仕組みが整っています。                         |
| 福祉・介護 | 支援や介護が必要な人が、地域で安心して生活できる環境が整っています。                        |
| 子育て   | 県民が生き生きと暮らし、「子育てするなら広島県で！」と選ばれる環境が整っています。                 |
| 環境    | 環境への負荷の少ない持続可能な社会の仕組みが構築されています。                           |
| 防災・防疫 | 社会全体で取り組む防災協働社会 P76が実現しています。健康危機管理 P71体制が整備されています。        |
| 消費生活  | 食品の安全の確保など、消費者の安全・安心を守る仕組みが構築されています。                      |
| 治安    | 治安が向上し、日本一安全・安心な広島県になっています。                               |



## 豊かな地域づくり

それぞれの地域が、県民や市町を始め企業や地域活動団体 P74とも連携しながら、自らの創意工夫で多様性の中から新たな活力を生み出し、住みやすく個性ある豊かな地域になっています。

|                  |   |
|------------------|---|
| 県民主役型地域社会        | 自立性を持って連携し支え合う多様な主体の活動により、地域社会が活性化しています。  |
| 地域資源 P74活用・地域情報化 | 地域の特性や資源を生かした産業が生まれ、身近な自然環境や景観の保全、伝統文化や行事の継承など、地域の価値を高める様々な取組が地域ブランド P74となり、人々が誇りと愛着を持って生き生きと暮らしています。様々な生活場面で情報通信技術が活用され、利便性が向上しています。 |
| 都市地域             | 機能的で魅力的な市街地や施設等が整備され、都市的機能 P75が提供されています。  |
| 中山間地域 P74        | 日常生活を支える機能が確保されるとともに、地域の特性や資源を生かした産業により地域の将来を担う若者などの就業の場が確保され、里山 P72に象徴される人と自然が作り出す中山間地域ならではの環境の中で、ゆとりある生活が営まれています。                   |
| 平和貢献             | 世界で最初の被爆地として、広島県の国際平和の拠点化が進んでいます。   |

## (4) 4つの挑戦を具体化し推進する上での視点

### ア「強み」を生かした活力の創出

経営資源（予算，人材）に制約がある中であっても，現在本県が直面している課題や今後深刻な影響を受けるおそれがある問題に対しては，迅速に手立てを講じ，早期に具体的な成果を生み出していくことが求められます。

それには，現状等を分析した上で，本県が有する「強み」を掘り起こし，磨いて伸ばすことをベースにすることが最も近道です。

こうした観点から，施策や事業を企画・立案し，実施する際には，本県が有する，競争力ある産業と蓄積された技術，優れた人材，瀬戸内海を始めとする世界的にも恵まれた自然環境，2つの世界文化遺産<sup>P74</sup>，様々な海産物や農産物など，様々な「強み」を生かして，「目指す姿」の実現に向け，新しい活力を生み出していきます。

### イ「イノベーション」による新たな価値の創造

人口減少社会の中にあっても，様々な分野の「強み」を生かして新たな活力を生み出していくためには，これまでの発想や手法にとらわれることなく，新しいアイデアで，モノや情報，仕組みなどを組み合わせることにより，新たな価値を創造していくこと，すなわち「イノベーション」が必要です。

このため，経済の分野で新たな活力を生み出すことはもちろんのこと，「人づくり」「安心な暮らしづくり」「豊かな地域づくり」の分野でも「イノベーション」に取り組むことで，生産年齢人口<sup>P73</sup>の減少に対応する労働力率<sup>P77</sup>の引き上げ，産業として自立した農林水産業の確立と中山間地域<sup>P74</sup>の持続可能な地域構造への転換，人口減少に対応するまちづくりやインフラ<sup>P70</sup>の維持の仕組みづくり，安心できる医療サービスの確立など，私たちが直面する深刻な課題等に解決策を見出していきます。

### ウ「グローバル化」への的確な対応

東アジアを中心とした新興国<sup>P73</sup>の台頭などにより，今後，「グローバル化」は一層進展することが見込まれます。

この「グローバル化」は，経済，文化・芸術，スポーツなどの様々な分野で，あるいは，県民一人ひとりの日常生活から企業活動に至るまで，あらゆる場面に影響を与えていきます。

このため，日々の生活においても，国際社会の中で生きていく広い視野とグローバルな感覚を持って行動するとともに，こうした「グローバル化」を世界に向けて大きく羽ばたくチャンスと捉え，アジア地域などの海外の成長市場の活力を取り込むなど，新たな活力を創造していくことに取り組めます。

### エ「県民主体」の新たな広島県づくり

本県の力を最大限に引き出し，あらゆる分野で新たな活力を生み出して，本県を真に変革させる原動力となるのは，県民一人ひとりです。

こうした観点から，個人・企業・団体を問わず，自ら問題意識を持って一歩踏み出そうとしている方々，挑戦しようとしている人たちを応援し，連携・協働しながら，共に新たな時代を切り開く広島県づくりに取り組みます。

行政の分野においても，透明性の確保，住民への説明責任の徹底等により，住民の自治への参加を促す環境整備を一層推進するとともに，地域コミュニティ<sup>P74</sup>やNPO<sup>P70</sup>，企業等の多様な主体と行政が目的を共有し，住民の理解と合意の下でそれぞれの役割を分担しながら，「公」に関わる領域について共に担う地域協働社会の実現を目指します。

## オ 市町及び近隣県との「連携」

地域主権型社会にあっては、住民に身近な行政を担う市町の役割は極めて重要となります。

このため、県と市町の役割分担の最適化と連携により、住民に対するサービスが効率的かつ効果的に提供される体制を構築するとともに、県内で懸案となっている課題を解決するため、県内の市町と対等なパートナーとして密接な協力関係を築き、地域の活性化を共に推進します。

また、経済活動や人の交流が現行の都道府県の枠組みを越えて広域化している中では、本県のみならず、圏域ブロック P71 全体の発展を視野に入れた施策展開が不可欠です。

このため、観光振興、環境保全、高速交通体系の整備など、広域的な対応が不可欠な分野や施策で近隣県等との連携を強化し、相互に補完しながら、圏域全体の活性化を推進します。





## 5 行政刷新

地域が底力を発揮し、新たな活力を創造していく上では、それぞれの地域が、その特性に応じた活性化策を自ら進めていくことが重要であり、こうした取組を可能にする行政の枠組みを再構築することが避けて通れません。

また、本県を取り巻く財政状況が今後更に厳しさを増すことが予想される中であって、重要な施策や優先度の高い取組に、将来にわたって、限られた経営資源（予算、人材）を集中的に投入できる経営体としての基礎体力を整備することが不可欠です。

こうした点を踏まえ、実効性のある「4つの挑戦」を行うための行政の体制整備を図る観点から、国と地方のあるべき姿を明らかにし、新たな広域自治体を目指すとともに、経営という視点で、県の財政面、行政面での基盤づくりを進めます。

### (1) 新たな広域自治体の構築

これまでの国主導による中央集権的な行政システムを抜本的に見直し、地域が活力創出のための施策を独自に進めることができるよう、国と地方の役割を再定義し、国と地方を通じた権限と財源の最適化を図る必要があります。

これにより、地域の特性を発揮した政策を独自に進めることができ、地域間でより良い競争を生み出し、国全体の活力を創出していく地域主権型社会を構築することができます。

また、最適化された権能を有する自治体が、地域の成長戦略を展開するには、現在の都道府県の枠組みでは限界があり、既に県境を越えて広域化している経済活動や住民生活の実態も踏まえながら、広域的な行政需要や圏域ブロック P71の課題に的確に対応し得る新たな広域自治体の構築を目指す必要があります。

#### ア 基礎自治体・広域自治体・国の担う役割の基本的な考え方

##### (ア) 基礎自治体の担う役割の基本的な考え方

基礎自治体は、住民自治による自己決定・自己責任の下で、自らのまちづくり・暮らしづくりを総合的に担います。

具体的には、都市計画 P75、土地利用、地域内インフラ P70などのまちづくりに関する計画づくりやハード・ソフト事業、保健・福祉・教育など住民生活に密接な行政サービスを実施します。

##### (イ) 広域自治体の担う役割の基本的な考え方

広域自治体は、基礎自治体が対応できない広域的な施策を実施するとともに、広域エリア全体の総合的な発展戦略を担います。

具体的には、警察、広域的な危機管理、医療政策などの広域的な事務や、地域産業政策、雇用政策、広域インフラなどの広域エリア全体の発展戦略に関する事務を実施します。

##### (ウ) 国の担う役割の基本的な考え方

国は、国際社会における国家の存立に関する事務、国土全体の中核・根幹的な基盤整備やナショナルミニマム P75等に関する事務を担います。

具体的には、外交・防衛等の国家の存立に関する事務、国際ハブ空港 P72・高速道路等の国土全体の中核・根幹的な基盤整備や、生活保護の制度構築等ナショナルミニマムに関する事務を実施します。

#### イ 国と広域自治体の関係

国と広域自治体の担う役割の基本的な考え方に基づいて、国の出先機関 P71事務の受入れ、地方税財源の充実強化など、実効ある地域主権改革 P74の着実な推進に取り組みます。

#### ウ 広域自治体と基礎自治体の関係

広域自治体と基礎自治体の担う役割の基本的な考え方に基づいた地域主権改革の着実な推進と実効性のある市町への権限移譲の推進に取り組みます。

## エ 新たな広域自治体の構築へ向けた取組

都道府県を越える広域的な行政需要や圏域ブロック P71の課題に的確に対応するため、近隣県、経済界等との連携強化を進めつつ、現行の都道府県の枠組みを越えた新たな広域自治体を目指します。

## (2) 4つの挑戦を支える行政経営の基盤づくり

本県の底力を引き出し、新たな活力を創出していく上で、財政運営、行政運営両面での連携した基盤づくりを次のとおり進めます。

### ア 財政面での「基盤づくり」

より良い県民サービスを提供していくための財政上の基盤の整備（財政面での「基盤づくり」）という視点で、弾力的かつ持続可能な財政構造の確立に向けて、財政運営マネジメントを推進します。

#### (ア) 今後の財政運営

県勢の発展のための重要な分野への重点投資を可能にするとともに、将来にわたり、財政運営の持続可能性が確保されている状態を目指すこととし、フロー指標 P76、ストック指標 P73などを今後の財政運営の指針とします。

#### (イ) 弾力的かつ持続可能な財政構造 P74の確立

弾力的かつ持続可能な財政構造の確立に向けて、経常的経費 P71や政策的経費 P73について、不断の見直しを行うなど、計画的かつ着実に財政健全化の取組を進めます。

### イ 行政面での「基盤づくり」

経営戦略 P71を基にして、県民ニーズを的確に捉え、現場を重視する視点から、スピーディーに施策に反映できる機動的で柔軟な組織づくりや人材の育成・配分を行います。

#### (ア) 戦略的な行政経営

重要施策や課題等へのスピーディーな企画・判断・実行等、経営感覚を持ったトップマネジメント P75の確立に取り組むなど、行政経営の最適化を推進するとともに、経営の視点から、事業・仕事のプロセスの見直しや、成果主義の徹底を図ります。

#### (イ) 組織体制の最適化

組織のスリム化と活力の維持の両立を図りながら、県民ニーズを的確に捉え、スピーディーに施策に反映するための現場重視の組織づくりを目指すとともに、計画的な定員管理 P75を行います。

## (3) 行政運営の透明性の確保と情報発信の強化

県民への説明責任を果たすとともに、県政に対する理解と信頼を深めるため、情報公開の充実等により、公正で透明性の高い県政の推進に向けて取り組んでいきます。

また、高度情報化やグローバル化が進展し、地域間競争が激化する中で、県内に加え全国や海外に向けて、県政情報や本県の魅力をより強力に発信することが重要です。

このため、個別の広報活動の改善、県民ニーズ等を踏まえた自主広報 P73の充実、マスメディアを活用した広報の強化、研修等を通じた県職員の広報能力の向上や庁内連携体制の充実などにより、県内外に向けた戦略的な広報を実施していきます。

## 6 ビジョンを推進する上での施策のマネジメント

「目指す姿」の実現に向け、「4つの挑戦」と「行政刷新」に取り組む上で踏まえるべき県職員としての基本的な視点や、ビジョンの着実な推進を図るためのマネジメント方策を示すことで、今後どのように計画を推進していくかを明らかにします。

### (1) 3つの視座の徹底

県民とともに「目指す姿」を実現していくためには、県職員一人ひとりが失敗を恐れず、スピード感を持って創意工夫を行っていくことが大切です。

このため、仕事を進める上では、次の3つの視座の徹底を図ります。

#### ア 県民起点

県政は、広島県及び広島県民のためにあるという基本認識に立ち、物事を判断する場合には、常に「本当に県民のためになっているか」ということを自らに問いかけながら物事に取り組みます。

#### イ 現場主義

県政の担い手として、直接、県民と接しているのは現場の職員であり、県民ニーズの把握や行政サービスの実務は、現場を中心として行われていることから、常に現場を意識し、現場感覚を持って仕事を進め、現場の第一線で働いている職員を組織全体でサポートします。

#### ウ 予算主義から成果主義への転換

優れた行政サービスを提供するためには、「何にいくら使うのか」という予算を重視するよりも、「何を達成したのか」、「それがどのような効果を生み、どういう成果を作ってきたのか」という視点で業務を進めていくことが重要です。

あらゆる経営資源は、成果を生むための「コスト」と考え、より大きな成果を生むために、いかに少ないコストに抑えるかを仕事の中で実践していきます。

### (2) 施策のマネジメント

「目指す姿」を実現していくためには、「取組の方向」を、実効性のある事業へと具体化するとともに、事業を実施する中で生じた問題点等を勘案しながら、事業を設計した時点で想定した効果が着実に発現するように、軌道修正を加えるなど、適切な進行管理を行う必要があります。

こうした具体的な事業の進行管理に加え、「目指す姿」や分野ごとの「目標」の実現に向け、県が実施している施策の効果や成果について、「県民起点」で点検評価し、その結果を事業に反映させるなど、「成果主義」を具体化する、「目指す姿」や「目標」の達成状況を管理する仕組みを確立することが重要です。

このため、施策の実施効果を点検評価し、必要な改善を加えながら、施策がより効果的になるよう持続的に改善していく仕組み、いわゆる『PDCAサイクル』(計画(Plan)-実施(Do)-評価(Check)-改善(Action))をシステム化し、ビジョンに掲げた目標の達成状況、「目標の達成状況を確認するために参考とする指標」の推移、主な取組、社会経済情勢の変化や県民ニーズなどを把握し、総合的な点検・評価を行い、施策や事業の改善に反映させていきます。

こうした点検は、県内部の評価のみにとどまっていたのでは「県民起点」にならないことから、内部の点検結果を毎年、「経済財政会議 [P71](#)」に報告するとともに、翌年度の「県政運営の基本方針 [P71](#)」(毎年度方針)の検討に反映させるなど、外部評価 [P70](#)の仕組みを導入します。

また、点検評価の結果は県民に公表し、寄せられた御意見を改善に反映させていきます。